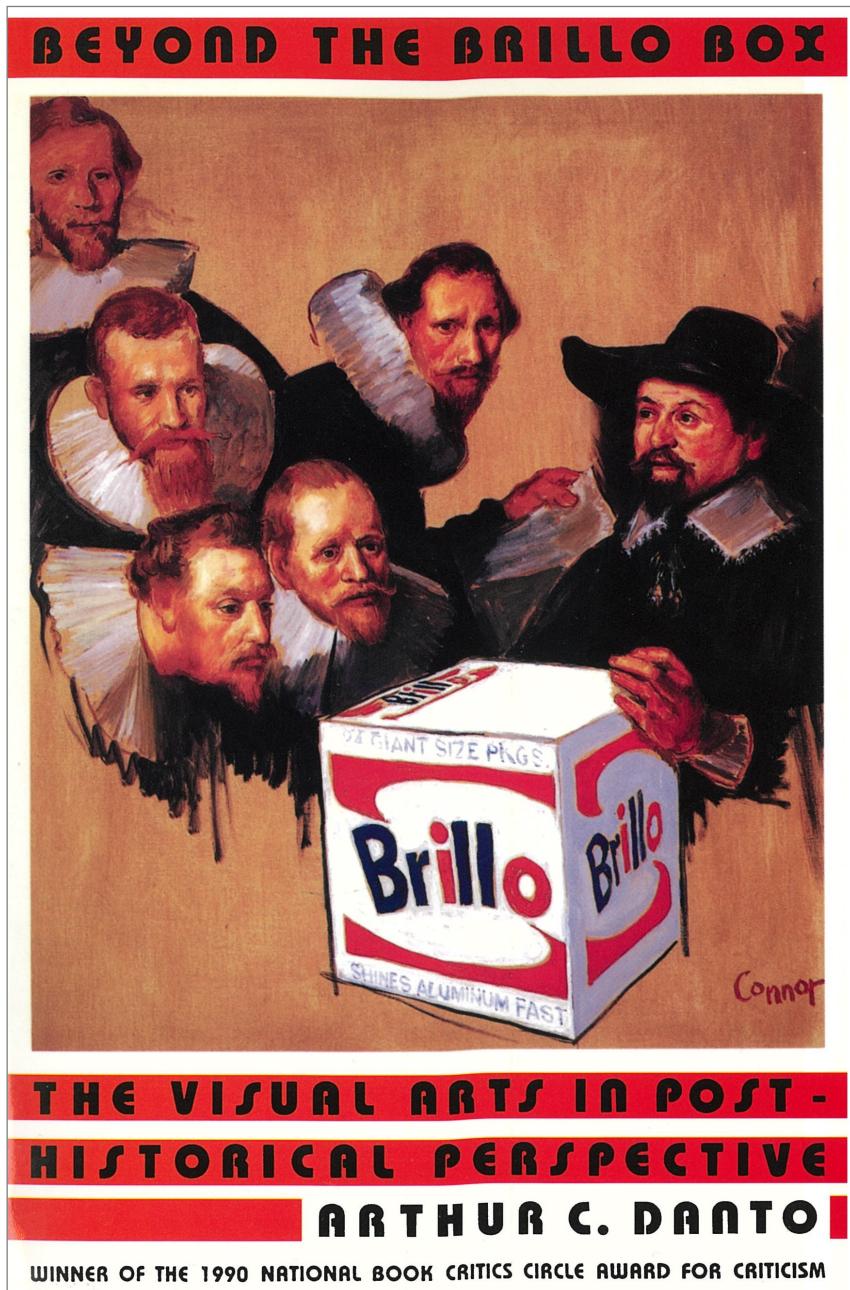


資料

令和4年度 キュレーターズ・キャラバンレクチャー



もっと知りたい！

アンディ・ウォーホルの 『ブリロ・ボックス』とその周辺

アーサー・C・ダントー『ブリロ・ボックスを超えて』1992年 表紙

米子会場

令和4年12月29日(木)午後2時-4時

Goods & Café みっくす2階(米子市日野町7番地) / 事前申込制、定員先着25名

倉吉会場

令和5年1月15日(日)午後2時-4時

HATSUGAスタジオ(倉吉市下田中町870中瀬ビル1階) / 定員25名、当日先着順

鳥取会場

令和5年2月23日(木・祝)午後2時-4時

鳥取県立博物館 講堂(鳥取市東町2丁目124) / 定員70名、当日先着順

県内
3カ所で
順次開催

聴講無料

主催：鳥取県教育委員会 / 講師：尾崎信一郎(鳥取県教育委員会事務局美術館整備局美術振興監兼鳥取県立博物館副館長)

- ・新型コロナウィルス感染拡大防止に配慮した会場運営を実施。感染状況により予定を変更する可能性があります。
- ・Cisco WebexによるWEB開催や別途録画した動画をインターネット公開することも検討します。

鳥取県立美術館の開館に向けた新規収蔵した
アンディ・ウォーホルの《ブリロ・ボックス》は
美術の歴史の中でどのよう
うな重要性を秘めている
のか。専門家の立場から
解説いたします。



画像左：森村泰昌「モリロとモリリン（仮称）」展示風景
第9回恵比寿映像祭 2017年 東京都写真美術館
©森村泰昌

画像右：フレッド・マクダラー〈アンディ・ウォーホル〉1964年
『ウォーホル画集』リプロポート 1990年より転載



鳥取県教育委員会では令和7年春の県立美術館開館に向けて、本年度、アメリカのポップ・アートの代表的作家の一人、アンディ・ウォーホルの《ブリロ・ボックス》5点を約3億円で購入いたしました。このニュースは賛否両方の立場から大きな反響を呼び、全国的な話題となっていることは御存知のとおりです。

確かに《ブリロ・ボックス》は私たちがなじんできた絵画や彫刻からあまりにもかけ離れ、美術作品として理解することは困難に思えます。しかし一見した際の異様さにもかかわらず、この作品は美術史の中に多くの先例と類似した作品をもち、続く世代の作家たちにも大きな影響を与えてきました。このたびのレクチャーでは「ブリロ以前、ブリロ以後」という区別さえ生んだこの作品が20世紀の美術史においていかなる意味をもち、いかに評価されてきたかをいくつかのテーマに沿って解説していきたいと考えます。

印象派に始まる近現代美術は単に見て楽しいということではなく、常に美術とは何かという問いを発してきました。《ブリロ・ボックス》はその典型的な例といえるかもしれません。レクチャーと質疑を通して、皆様とともにあらためて現代美術の魅力について考える機会を設けたいと考えます。多くの方々の参加をお待ちしています。

《ブリロ・ボックス》によって、私は美術の特質についての哲学的な問いかげがまさにその本質へと達したと感じたようになった。この問題と密接に関連して、哲学的な本質が露呈あるいは発見された時、芸術は歴史の終わりを迎えるというヘーゲルの有名な定式を借用するならば、私は(《ブリロ・ボックス》が初めて発表された)ステイブル・ギャラリーの展覧会において、私がややふざけて「芸術の終焉」と呼ぶ状況が明らかになったと確信するにいたった。

(アーサー・C・ダントー 「ブリロ・ボックスを超えて」)

[講師紹介] 尾崎 信一郎(おさき・しんいちろう、美術館整備局 美術振興監)

1962年生まれ。大阪大学文学部大学院西洋美術史学専攻博士課程単位取得退学。1987年より兵庫県立近代美術館に学芸員として勤務、1995年より国立国際美術館、1998年より京都国立近代美術館にて研究員、主任研究官として勤務。2006年より鳥取県立博物館にて美術振興課長、副館長を経て、2021年に館長。2022年より現職。著書として『絵画論を超えて』(東信堂、1999年)、共著として『戦後美術と美術批評』(ブリュッケ、2007年)など多数。企画した主な展覧会として「重力—戦後美術の座標軸」(国立国際美術館、1997年)、「アウト・オブ・アクションズ」(ロスアンジェルス現代美術館、1998年)、「痕跡—戦後美術における身体と思考」(京都国立近代美術館、2006年)、「生誕100年 彫刻家辻晉堂展」(鳥取県立博物館、2010年)など多数。

